

出水地区におけるノリ養殖業者グループへの活動支援 (沿岸漁業リーダー・女性育成支援事業)

北薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

出水地区は本県で唯一のノリ養殖生産地であるが、その南限にあるため、気候や海域環境の変動を受けやすく生産は不安定な状況にある。このため、より高品質で評価の高いノリ生産に向け出水産地種「イズミアサクサ野口種」の養殖に取り組むノリ養殖業者グループの活動を支援し、出水海苔のブランド化を促進する。

【普及の内容・特徴】

1 生産体制の統一化

養殖漁場への網の張り込みや網の撤去など一斉実施するとともに、網の張り込み水位調整による疾病対策や囲い網設置によるカモの食害対策など、業者間で協議しながら実施した。

2 アサクサノリ陸上採苗

沿岸漁業リーダー・女性育成支援事業（水産庁）を導入し、水産技術開発センターと連携しながらイズミアサクサ野口種品種のカキ殻糸状体を培養・管理（平成26年3月～10月）し、アサクサノリの陸上採苗に取り組んだ。

3 出水海苔のブランド化

(1) ノリ養殖技術研修会の開催

品質の高いノリ生産に向け、養殖技術や疾病対策に関する講習会を開催した。

・平成26年8月27日 講演「ノリ糸状体の培養とノリ養殖技術について」

講師：岩田海苔培養所（熊本県玉名市）

(2) 北薩地区の農林水産体験ツアーの参加者を対象とした手漉き体験会の開催（平成27年1月20日）や地元で開催された名護・新鮮おさかな市において出水で生産したノリの無料配布（平成27年2月14日）を行い、出水海苔のPRを図った。

【成果・活用】

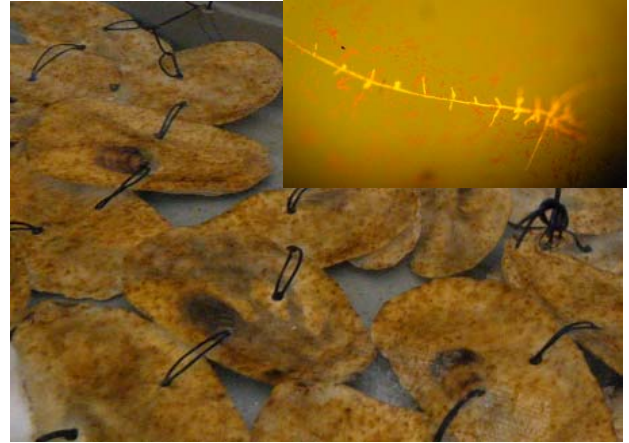
1 カキ殻糸状体の培養技術向上が図られるとともに、養殖方法の統一化や陸上採苗の共同活動、ツアー参加者等を対象としたPR活動等を通じ、グループ員の意識醸成が図られ、出水海苔のブランド化に向けた取組が推進された。

2 アサクサノリの陸上採苗においては、ノリ網への胞子の付着個数が顕微鏡一視野当たり50個以上を確認でき、海上展開後の生長に十分な胞子数を確保できたものの、製品のアサクサノリ出現率（PCR分析した4試料の結果）は、6%、19%、29%、75%と、50%を超えるものは1ロットにとどまった。

今後は、出現率の向上に向け海上展開後の養殖技術を検討していく必要がある。



イズミアサクサ野口種のカキ殻糸状体培養



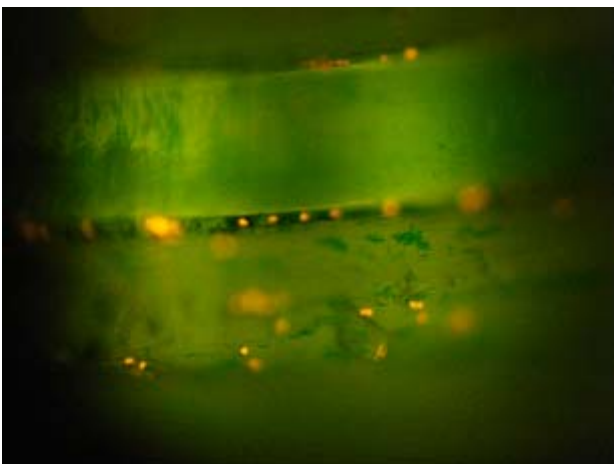
糸状体培養に用いたカキ殻
(右上:カキ殻に穿入した糸状体)



殻胞子の成熟促進(冷温・短日処理)
(右下:成熟が進む糸状体胞子のう)



陸上採苗作業



ノリ網繊維に付着した殻胞子
(蛍光顕微鏡により黄橙色に光る)



手漉き体験